

伊吹高等学校

克己慎独

(こっきしんどく)

伊吹高等学校の部旗には「克己慎独」の文字が染め抜かれています。この四文字を「克己」と「慎独」に分けて考えてみます。

「克己」とは「自分（己）の感情や欲望に打ち勝って目的に向かって努力する」という意味で、我を忘れて一つのことに打ちこむ人の、真剣で清々しい姿を想起する言葉です。

この言葉は、『論語 顔淵第十二』に登場します。「顔淵仁を問う 子曰く己に克ちて、礼に復するを仁と為す」「孔子の弟子顔淵が先生に“仁とは何ですか”とたずねた。先生は“自分を慎んで、規範に立ち戻ることだ”とお答えになった」という意味でしょうか。

「世を正すためには、一人ひとりが我を捨て仁の道に徹することだ」という孔子の考えが率直に語られ、現代人にも訴えているように思います。

「慎独」という言葉は「独り慎む」と訓読します。「独り、つまり誰も見ていないところでも心を正しくする」という意味です。儒教の重要な教書である四書の『大学』や『中庸』に「君子は其の独りを慎む」と記述されていて、大変古い言葉です。清代の文人劉青霞が自分の書室を「慎独軒」と命名したり、同じく清の武人康呂賜が書齋を「慎独齋」と呼ぶなど文武に秀でた人たちが好んで用いた言葉です。

伊吹高等学校は昭和58年に創立され、剣道部も、ほぼ同時に創部されました。

現在、自らも剣道の研鑽に努めながら部員を指導しておられる鐘居忠芳先生が顧問に就任された時には部旗がなく、「いつか部旗をつくろう」と考え、この言葉にたどりつかれたということです。「苦しいときにも負けない強い心を持ち、人の見ていないときこそしっかりした行動をとれる人になってほしい」という願いをこめて、先生は伊吹高校書道の押谷達彦先生に揮毫を依頼されて真新しい部旗が出来ました。この部旗のもと、部員諸君の活動が活発になってきたように思います。